

今回は、第1回「まなびかふえ」の報告です。

◇ 高校生の探究活動の成果発表の場、「まなびかふえ」が始まりました！

主催： 関高等学校 関市観光協会

日時： 令和3年6月26日（土） 13:00 ~ 15:00

場所： せきてらす 多目的ホール 関市平和通り4-12-1

内容： 高校生の探究活動の成果発表。昨年度のFRH探究活動の成果を発表する。
（昨年度FRH探究活動発表会発表者のうちの希望者が参加）
広く一般市民に公開する。

司会： 丸山愛未（関高3年、放送部）

内容：

○「多文化共生社会」 沖館伽良（2年）

（株）キョウワのベトナム人雇用や現地工場の状況をもとに、多文化共生の未来について考える。

○「限りある資源を持続的に使うため」 中田海斗（2年）

彫刻刀（義春刃物）の柄の部分に関する提案。地球環境の保全に配慮。

○「子ども食堂を考える ~人とのつながり~」 繁ユリ子（2年）

関市内の子ども食堂の実践活動について考える。

○「おやさいくレヨン」 青山櫻子（2年）

米ぬか油とライスワックスをベースに、捨てられてしまう野菜を使ったクレヨンについての提案。

○「食の格差をなくす」 石井 晶（3年）

食品ロスをなくすための工夫の具体的な提案。関市の公設市場の活動をヒントに考える。

○「Try Dry Veggie & Fruits」 近藤未涼（3年）

食品ロスをなくすための方法として、野菜や果物の皮の利用を推進。おいしい食べ方の提案。

○加茂高等学校からの参加者 田中颯星（2年）

「ブルーインパルス of 東京都心飛行」

エッセンシャルワーカーのための自衛隊機飛行の是非をめぐる問題。昨年度、関高・加茂高・各務原西高交流会の発表作品。

◇ 「まなびかふえ」とは…

せきてらすを舞台に、若者や子どもが、知的な刺激を求めて気軽に交流できる場を作れないか。関高校と関市観光協会は、そんなコンセプトで「まなびかふえ」を始めました。

今回のテーマは“高校生の僕らが考える、世間をちょっとよくするエトセトラ”

誰もが平等に尊重されること、環境を保全し未来に繋げること、安心して暮らせる環境をつくること…。よりよい社会をつくり持続的に世界を発展させていくことが命題となっている今、未来を創る担い手である7人の高校生たちが、そんな社会的命題に対してどう向き合い、どんなアイデアを持っているのか。オトナたちも交じって高校生の想いを聞き、時に議論をする。ゆるやかな学びの空間をつくりだす。それが「まなびかふえ」のコンセプトです。

さらに今回は、市内の喫茶店カフェ・アダチさんのご協力で、同時に世界6エリアのコーヒーの飲み比べをする催しを同時開催しました。

◇ 当日の様子



◇ 当日の様子

■昨年度の探究活動の集大成を、まさか地域に発信できるとは思っていなかったもので、自分でも驚きだった。このような経験ができたことに心から感謝したい。

私は、地域を活性化させるための活動に興味があって、なんでも参加したいと思ってしまうのだが、今回は特に格別な機会であった。"せきてらす"では今回のように研究発表を通じて地域の人たちと交流ができたたり好きな時に好きな形で利用できたりと、地域に寄り添うための最適な環境であると気づかされた。

今回の第1回まなびかふえでは、あらゆる人の発表やディスカッションなどによるコミュニケーションによって今まで知っていたことも知らなかったことも踏まえて新たな発見があり、身近な場所から学びが広がることを実感した。このような素晴らしい学びの環境が関市にあるということ、周りの

多くの人に知ってもらいたいと感じた。

■今回の第一回まなびかふえに参加できて本当に良かったと思いました。理由は二つあります。

一つ目は、自分の意見を発信できたことです。昨年度は、例年の探究活動とは異なり、外部の方々に発信・提案する機会がなく、何のためにやったのだろうか、と思うところも正直ありました。ですが、今回このような発表の場があり、自分の意見が他の人に知ってもらえるということがいかにうれしいことか実感することができました。

また、休憩中に株式会社キョウワさんの方から「とても良い発表だった」と言ってもらえた時には、この研究を約一年間続けてきてよかったと思うことができました。

二つ目は、今回の発表が自分にとって良い経験となったことです。僕は今まで、発表といえば原稿用紙を手に持ち、マイクの前に立って話すという、堅苦しいものをイメージしていました。ですが、今回の発表でそのイメージは覆されました。360度聴衆の方々に囲まれ、ステージ上では自由に動くことのできる、そんな場所での発表に対して、新聞での取材の際にも話したように、ステイブ・ジョブズさんの新商品発表さながらのイメージを持ちました（もちろん、これは今回の舞台設定がカフェというくつろげる空間での発表ということを感じたことです）。そんな状況で、今までとは一風変わった自分で、人前で話すことはとても緊張しました。どこを見て話せばよいのか、こんな話し方でいいのだろうか、などととても困惑しました。ですが、今までにない自分に出会わせてくれたことが本当に良い経験となりました。

また、周囲の方々からの反応、具体的には疑問や共感、付け足し、反対などが僕の意見をさらにより良いものにしてくれました。今後は、今回のような機会があれば積極的に参加していきたいし、そういった機会を大切にしていきたいなと思います。

■今回のイベントは、カジュアルな雰囲気の中行われたので緊張がほぐれました。頷きながら聞いてくれる方も多くいて、嬉しかったです。

私が発表した内容は、「子ども食堂を通した、人とのつながりの大切さ」についてです。質問コーナーでは、「学校の中に子ども食堂を作るのはどうか?」というユニークな案も出て、斬新な考えを持つ方との交流ができ、良かったです。

今回のイベントに参加してくださった方は、私たち提案者の意見や考えに興味を持ったり理解してくれたりしたと思います。このイベントをきっかけにさらに多くの人にSDGsの考え方が伝わっていったら、より良い世界を作れるのではないかと私は考えます。

最後に、自分が去年FRHで研究した内容を多くの人に聞いてもらえる機会をいただけたことに感謝します。ありがとうございました!!

■6月26日のせきてらすのまなびかふえにて、私は「限りある資源を持続的に使うための方法」について発表しました。

関テラスでは、とても気楽に過ごすことができました。発表する前の空き時間にはトランプで遊ぶ事ができるほどです。

私が学校で発表した時は、オンラインで画面の前でしか話せていませんでした。しかし、まなびかふえでは地域の方の前で3方向に発表ができました。私は大勢の人前でこう言った意見を言った経験が少ないので良い機会となりました。発表し終わった後の感想の時間では、義春刃物工場長の田中さんに「よくまとめてある。」と褒めて頂いたのがとても嬉しかったです。

他の発表者のお話を聞いていると、どれも将来の私達に繋げていきやすい話題が簡潔にまとめられていて、よく理解ができました。そこで、私は先輩方の発表で話し方に注目して聞いていました。言いたい部分を「強調」することや、ほどよい「抑揚」や、話に「メリハリ」をつけることなど私にはまだ足りないような要素もありました。

私はこのイベントを企画してもらってとても成長出来たと思います。